

I 研究の概要

第6回目となった綾瀬市第6次教育基本調査は、第1次から第5次までの基本調査と同様に、綾瀬市の小・中学生とその保護者に対して、生活実態や教育に関わる意識などを調査するとともに、第1次教育基本調査（平成10年7月 実施）から5年毎に行ってきた第5次教育基本調査（平成30年7月 実施）までとを比較して、その変化を把握し、今後の教育活動の資料とすることをねらいとした2年間の研究であった。

研究を進めていくにあたり、調査では、現在の子どもたちの生活実態、学習や生活に関する意識を明らかにするとともに、保護者の教育に関連する行動や意識・考え方も探ることとした。調査項目の作成においては、第5次調査の調査項目をもとに5年前・10年前・15年前・20年前・25年前との比較という観点から、過去の調査項目をできるだけ今回の調査でも残すことにした。ただし、現在の社会状況にそぐわない項目や選択肢については削除するとともに、必要な項目や選択肢については新たに追加するなど、内容を一部改めた。また、今回の調査より児童・生徒はMicrosoft Formsを使用した。

今回の調査により、子どもたちの多様な生活実態や考え方、保護者の教育や子どもたちに対する期待について、過去の調査と比較することによって、それらの変化を把握することもできた。その結果をもとに、綾瀬市の小・中学生とその保護者の生活実態や教育に関わる意識についてまとめた。

II 調査の概要

1 調査の目的

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測困難な時代となっている。このような中、子どもたちの生活実態や考え方、及び保護者の教育に関連する考え方や意識を把握するとともに、平成10年より5年毎に行われている第1回教育基本調査（平成10年7月実施）から、第5回教育基本調査（平成30年7月実施）までと比較して、その変化を把握し、今後の教育のあり方を検討するための基礎資料を提供することが目的である。また、さらに5年後、10年後の児童・生徒や保護者の生活実態や教育にかかわる意識の変化を把握できるようになればと考えている。

2 調査実施の概要

(1) 調査方法 質問紙法によるアンケート調査（前回の調査よりマークシート方式を採用。また、今回の調査より児童・生徒のみMicrosoft Formsを使用。）

児童・生徒については、学級単位で「調査実施マニュアル」にそって担任が説明しながら実施した。

保護者については、子どもを通して調査票を配布し、その回収は個別に封筒に入れて返却してもらった。

(2) 調査対象 小学校4年～中学校3年の児童・生徒及びその保護者

小学校については、綾瀬市内を3地区（南部地域・中央部地域・北部地域）に分けるとともに学校規模（学年の人数）も考慮に入れ、各学年のバランスがとれるように配慮した。中学校については、各校各学年2クラスで実施した。

(3) 調査人数

①児童・生徒 *欠席児童・生徒については実施せず

*調査票配付人数1,766人 回収率88.3% 単位(人)

小学生	学年	南部地域		中央部地域		北部地域		小計	合計	総計
	4年	土棚(22)		綾瀬(147)		北の台(90)		259	666	
	5年	落合(51)		早園(57)		綾北(67) 寺尾(42)		217		
	6年	綾南(52)		綾西(75)		天台(63)		190		
中学生	学年	綾瀬	綾北	城山	北の台	春日台	小計	合計	1560	
	1年	60	69	67	64	65	325	894		
	2年	68	56	56	63	50	293			
	3年	54	54	56	59	53	276			

市内の小学校4年～中学校3年の児童・生徒総数と調査実施児童・生徒数の割合は、次表のようになる。

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
総数(人)	717	722	740	811	755	789	4,534
実施者数(人)	259	217	190	325	293	276	1,560
割合(%)	36.1	30.1	25.7	40.1	38.8	35.0	34.4

②保護者 *調査票配付人数1,766人 回収率74.5% 単位(人)

小学生	学年	南部地域		中央部地域		北部地域		小計	合計	総計
	4年	土棚(16)		綾瀬(129)		北の台(61)		206	580	
	5年	落合(46)		早園(46)		綾北(55) 寺尾(38)		185		
	6年	綾南(47)		綾西(97)		天台(45)		189		
中学生	学年	綾瀬	綾北	城山	北の台	春日台	小計	合計	1315	
	1年	61	61	62	52	59	295	735		
	2年	48	47	48	35	51	229			
	3年	42	34	44	41	50	211			

第5次教育基本調査(平成30年度)の回答人数

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
児童・生徒数(人)	252	229	293	344	330	320	1768
保護者数(人)	222	208	266	325	259	270	1550

第4次教育基本調査(平成25年度)の回答人数

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
児童・生徒数(人)	227	231	314	359	336	345	1812
保護者数(人)	211	214	289	322	298	275	1609

第3次教育基本調査(平成20年度)の回答人数

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
児童・生徒数(人)	254	234	291	354	337	333	1803
保護者数(人)	247	227	278	342	313	298	1705

第2次教育基本調査（平成15年度）の回答人数

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
児童・生徒数(人)	231	236	239	335	339	311	1691
保護者数(人)	223	222	221	301	316	269	1552

第1次教育基本調査（平成10年度）の回答人数

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
児童・生徒数(人)	266	260	275	348	338	348	1835
保護者数(人)	254	214	262	319	322	318	1689

(4) 調査期間

児童・生徒 令和5年7月10日（月）～14日（金）

保護者 令和5年7月10日（月）～19日（水）

(5) 調査項目

児童・生徒編	
プロフィール（学年、性別、家族等）	
(1) 家庭での生活	(4) 友だちとの関わりなど
① 起床・就寝	① 遊びの人数
② 朝食・夕食	② 帰宅後の活動内容
③ 手伝い	③ 仲の良い友だち
④ 家庭学習	④ 学習塾
⑤ 家で注意されること	(5) 価値観と将来展望
⑥ 家の人との会話	① 福祉に関する価値観
⑦ 家の人との相互理解	② 環境問題に対する意識
⑧ 生活時間	③ 染髪・ピアス等への価値観
(2) 学校での生活	④ 将来について
① 教科の好き嫌い	(6) ストレスと学校への適応
② 行事の楽しさ	① いじめ
③ 部活動への参加状況と要望（中学生のみ）	② ストレス
④ 教師への要望	③ 学校への適応
(3) 地域での生活	④ 給食を残す理由
① 生活体験	(7) スマートフォン・携帯電話
② 地域との関わり	① 所持状況と必要性
③ 地域での活動	② 持たない理由と使う機能
④ 地域での施設利用	③ 家庭内ルールと操作時間
⑤ 地域への愛着	④ トラブル
	(8) 新型コロナウイルス感染症の影響

保 護 者 編	
<p>(1) 家庭における教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 子どもに対する理解 ② 子どもとの会話の内容 ③ しつけの様子 ④ 土曜・日曜日の子どもの過ごし方 ⑤ 進路に対する考え方 ⑥ 進学に対する考え方 ⑦ 学習塾に対する考え方 ⑧ 家庭教育で重視すること <p>(2) 学校教育への満足と要望・期待</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校教育に対する満足度 ② 学校への期待 ③ 教育の分担 ④ 進路指導に対する要望 ⑤ 部活動に対する期待 	<p>(3) 地域における活動と愛着</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域との関わり ② 地域への愛着 ③ 子どもの地域活動への参加状況 <p>(4) 教育に対する価値観と悩み</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教育問題に対する考え方 ② 公教育に関する話題 ③ 子どもの教育に対する考え方 ④ 子育ての悩みや実感 <p>(5) スマートフォン・携帯電話</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 子どもの所有の有無と理由 ② 重要な機能と家庭のルール ③ フィルタリングサービス <p>(6) 新型コロナウイルス感染症の影響</p> <p>プロフィール (年齢、性別、家族等)</p>

3 分析の方法

(1) 分析の方法

調査の分析は、フリー統計ソフト「PSP」を使用した。

(2) 数値の取扱い及び図表について

- ① データクリーニングでは、無回答・不明回答を欠損値として処理した。
- ② 回答率 (%) は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記してある。そのため、回答率の合計が100% (99.9%または100.1%など) にならないものもある。
- ③ 「IV 結果と考察」の中のグラフについては、原則として令和5年度の回答率の高い項目順に並べてある。
- ④ 「III 結果の概要」及び「IV 結果と考察」中の「令和5年度の結果」「平成10年度から令和5年度を通しての変化」において、文中や文末に示される(*)印は、統計的に有意差があることを示している。

